

高校生のための心理学講座 — 平成25年度も開催します

教育研究委員会担当務理事 内田伸子

現常務理事会では市民や高校生に実証科学としての心理学の面白さを伝えたいということで、さまざまな取り組みに着手しています。その方針の一環として、昨年、高校生の心理学講座も各地で開催してまいりました。昨今、高校生たちは、心理学に対するイメージとして「黙って座ればぴたりと当たる、心を見透かす占い師」のように誤解していることも多いという状況があります。人の心を読みたいという動機で、心理学を志望し、大学に入って、実験計画法や統計学などを学ぶうちに、こんなはずではなかったとがっかりする人もいます。このような状況の中で、いっそ高校生に、心理学とはどういう領域かを少しでも知らせておくほうがよいのではないかと、心理学はエビデンスに基づいて人の心の謎を解き明かす実証科学であることを知らせるための模擬授業をしてはどうか、という議論が起きました。この議論のきっかけになったのは、1通のメールでした。

一昨年、学術会議との共催で公開シンポジウム「いま、何故、心理学教育を高校に導入する必要があるのか？」を開催しました。このシンポジウムは140名を超える参会者を集め、東大駒場の学際交流ホールで会場が満員になりました。そこに参加して下さったK総合高校のI先生から感想のメールが届いたのです。一部をご紹介します。

とても興味深いテーマでした。指導と評価の計画をお送りします。私はK総合高校で「心理学入門」と「カウンセリング入門」を教えています。現場で担当して思うことを少し補足させていただきます。総合学科高校では、さまざまな科目を履修させるというコンセプトのなかで、心理学も入ってきました。心理学関係の科目についても、特に心理学が必要だからという発想ではなく、心理学等を教えられる(教えたい)教員がいるので設置しているのが実情かと思います。今回のシンポジウムで長谷川寿一先生からもお話があったように、心理学は高校でも必要なんだという主張には賛同いたします。高校での心理学の授業を、学問的にきちんとしたものにするのはもちろんですが、一般的な高校生のレベルに適したものにするための検討が必要だと感じております。

とても貴重なご意見です。このメールをきっかけにして、佐藤理事長の提案で、全国の理事や会員の方々にこの企画に協力していただき、高校生のための心理学講座を開設することになりました。北海道地区、東北地区、関東地区2カ所、中部地区、関西地区、中国・四国地区、九州・沖縄地区の、7地区・8カ所で講座を開くことができました。

いずれも、90分×3コマ、1日3コマ、二日間で計6コマの模擬授業を公開することになりました。会場校を引き受けてくださる会員が所属している大学との連携講座にしてもよいし、進路相談も同時開設していただくのもよいとして、世話人に企画や運営をお願いしました。

講義に参加した高校生や市民など参会者たちからは「素晴らしい講義を聴けて満足した」という声が寄せられています。一般心理学(心理学方法論)、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、教育心理学などの分野のベテラン教授たちによる講義はとても素晴らしく、世話人として参加していた私も大いに勉強になりました。

実施してみて反省点も出てまいりました。会場校へのアクセスが良い地区では、高校生だけではなく一般市民も多く参加していました。また文化祭や模擬試験などと重なった場合は、二日間とも参加するのがたいへんだという理由で、高校生の参加数が少ない会場もありました。また二日間フル参加はきついというご意見もありました。そこで、2013年度は、次の3点を改善することになりました。第1に、講座の日程を高校行事や模擬試験とぶつからないように設定すること。第2に、1コマを60分、9時から17時まで、1日5コマ5分野の模擬授業を行うこと。第3に、アクセスしやすい大学の講義室を借用して、ついでにキャンパス見学もしてもらってはどうかということです。

今年も上記7地区(8カ所)に加えて新潟、金沢、久留米、沖縄でも開催します(計12カ所)。各地区の理事をはじめみなさまのご協力により、充実した講座を開設してまいります。どうぞご協力くださいませ。